

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心」という理念のもとに入居者への思いやりを大切に、家庭的な雰囲気の中で、安心した生活をして頂ける様、管理者、職員が日々話し合い、実践に努めている。	企業理念である「心」に基づき、事業所でも年度目標を設定しているほか、職員個々に目標を設定して、毎月の振り返りも行い、理念の実現に向けた取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会や環境整備等、一つの家庭として地域の役割に、積極的に参加すると共に、賽の神や敬老会等、地域の方々との親睦が図れる様、交流している。	清里地区の敬老会や賽の神といった地区の行事に積極的に参加するとともに、小学校の運動会に見学に出かけたり、中学生や高校生の体験学習の受け入れも行う等、地域の方々との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護を学ぼうをされる、地元の中学生・高校生を招き、高齢者の生き甲斐や可能性を引き出し方など、話し合いの場を設けている。家族が認知症をわずらい、とまどう友人への声掛け法を相談され、応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回、ホームの事業や状況報告をすると共に、懸案事項等の相談をし、意見交換や関連機関との情報交換をし、連携を深め、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、老人会長や包括支援センター職員、市の担当者や民生委員等に出席していただき、事業所からの報告に加え、事業所の課題に対して参加者と意見交換をすることに重点が置かれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者からは猛暑時の乗り切り方や突発的な地震時の安否確認、職員のメンタルケアや迷い犬の問い合わせ等に至るまで密な連絡を取り合い、入居者が地域に馴染んで暮らせるよう連携している。	2ヶ月に1回の運営推進会議には市の担当者にも参加いただいているほか、日常的な報告や相談を通して、サービスの質の向上に向けた協力関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を制限しない様に努め、職員教育にも力を入れ、月例検討会議時に全職員で確認する機会を設けている。玄関の施錠はせず、センサーによるチャイムで利用者の出入りの安全確認をしている。	玄関の施錠は夜間のみとしており、言葉の抑制についても日々気付いた場面で確認しているほか、会議でも確認する機会を設けており、開設以来、ご利用者の行動を制限しないことを徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で、グレーゾーンも理解出来ているか職員教育を徹底し、虐待防止に関する意識の向上を図ると共に常に利用者の状態把握を実施し、虐待が見過ごしにされることが無い様努めている。	新入職員研修でも虐待防止について周知しているほか、虐待に関する事例検討を職員と一緒にいき虐待防止に関する意識の向上を図るとともに、虐待が見過ごしにされる事が無いよう努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等について管理者や職員を研修に参加させ、内容を全職員に内部研修で普及する様にし、利用者様の状態を勘案し必要時には、活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項や契約について、利用者や家族に十分時間を取って説明させて頂き、理解して頂ける様、努めている。又退去に関する事項には、誤解や苦情の無い様、説明し退去先についても支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン等の立案時や、面会時、運営推進会議、毎月の各人へのお便り、外出外泊の連絡簿、電話等で、意見や要望等、気軽に聞かせて頂く機会を設けている。	ご家族の面会時には意見・要望等を求めるようにしているほか、ご家族を招待しての食事会や法人のグループホーム合同で家族会を実施し、ご家族との交流を通じ、サービスの向上に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間でミーティングの際、組織への提案、質問など、月例検討会開催時取り上げて、業務改善や運営に関する職員からの意見や提案を聞く機会を設け、全員で検討し反映する手立てとしている。	日々の朝礼、月例検討会等で職員が意見や提案を言う機会が設けられていると共に、管理者も職員の状況を見ながら個別面談の機会を設けるなどの配慮をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の資質及び介護技術の向上を図る為の各種研修には出勤扱いや、社用車の貸出をしている。やりがいを持って、各自や職場全体の活性化・スキルアップが出来る様、向上心の高揚を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー2級・介護福祉士・介護支援専門員等の受験への配慮、防災関係の学習会・看護師による医療知識などを計画的に実施している。研修を奨励し、勤務等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の見学や職員研修及び実習の場として、協力的にネットワーク作りに努め、相互の意見交換を活かしながら、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	予め、見学をして頂き、利用者本人様だけでなく家族にも十分納得して頂ける様、不安な事、望んでいる事や疑問点等1つ1つ確認した上で、安心して選定して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や家族の不安な事や要望に対して、柔軟な対応が出来る様、家族の都合に合わせた日時に訪問をしたり、相談にのり、十分にお聞かせ頂き、理解していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の根本たる課題を見極める為、訪問調査時に、担当ケアマネジャーや相談員、看護師、介護士等、広く意見を聞かせて頂く機会を、設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の自立度に合った軽作業、野菜や山菜等の下拵え、雑巾縫い等、昔の生活場面が思い出せる様な作業を行ってもらう様に努めている。また苦労話にも耳を傾け労をねぎらっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回発行しているホーム便り等によって、施設内での一人ひとりの日常生活の様子を家族に伝えている。また月々の手紙や写真の送付をし、様子を伝える中で、家族支援にも努めている。	面会時や年に4回のホーム便りや毎月のお手紙の送付などでご家族へ情報提供を行っています。また、ご家族が気持ちよく事業所に来られるよう配慮し、協力を得られるようにしています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年暮らした集落の賽の神行事や町内の花火大会や敬老会等にも積極的に参加し、顔馴染みの人に出会う機会を設けている。又、投票したい人のいる選挙には字の練習をし投票出来る様に支援している。	ご家族の協力も得て、お墓参りや日帰り温泉に出かけたり、スーパーへ買い物に出かけたり、ひ孫に会いに行かれる方もいるなど、馴染みの人や場との関係継続の支援も行なっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲間意識を持つ事を大切に、職員はふれあいの場を設け、利用者が居室にこもったり孤立する事の無い様に努めている。また利用者同士がトラブルになりそうな場合は、職員が中に入りトラブル防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこれまでの関係性を大切にしながら、不安無く暮らせる様に、詳細な情報交換を行っている。住み替えによる本人のダメージを最小限に抑える様に、電話等で、相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日頃の会話や表情、行動を通じて思いを知ると共に家族や面会者の方からお話を伺いながら、更なる利用者の希望や意向の把握に努めている。家族の無い利用者等は墓参り等の支援をし、希望に添う様に努めている。	ご利用者・ご家族・関係者から聞き取った内容に加え、日常のケアの中から得た情報が職員間で共有されており、ご利用者の要望に応じたケアを実践できるように努めています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や家族の方々との会話を元にセンター方式を取り入れ、今まで過ごしてこられた生活や趣味や特技を把握し、利用者が張り合いのある生活が出来る様に努めている。	センター方式のアセスメントシートが活用され、3ヶ月に1度の定期的な見直しも行われており、事前面談や日々の生活で得た情報をケアプランに反映する取り組みが行われています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のラジオ体操、散歩時に心身状態をチェックし、掃除、リクレーション時では、持っている力の維持に努める、職員は、利用者の一人一人の把握に努め、ミーティング時等、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用しながら、本人の生活様式・思いを探り、全職員で検討し、個別性を大切に介護計画を作成して、毎月モニタリング時検討し、柔軟な支援や多様化に取り組んでいる。	月に1度のカンファレンスで介護計画のモニタリングを実施しており、6ヶ月に1度の定期的なケアプランの見直しとともに、ご利用者の状態変化による随時の見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ミーティングや申し送りを徹底しながら、月一回カンファレンスを行い、日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫など、職員間で情報を交換し、共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、出来る限り柔軟に取り組んでいる。その中でも、看取りや、日々の介護、外に出て地域の人や自然に触れる機会を多く取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から地域の医療機関、行政、消防、町内会、小学校、中学校、保育園、畑の人など地域の色々な人達との交流の機会を設け、利用者が安全で安心して、より豊かな暮らしが出来る様に、努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族の要望に添いかかりつけ医を決めて頂き、医療と連携を取りながら健康管理をし、家族に報告している。定期受診以外で医師に診てもらった場合も必ず家族に説明し、納得して頂いている。	ご本人・ご家族が希望する医療機関での受診が行われており、かかりつけ医にもご利用者の情報をまとめた医療情報提供用紙を送付し、協力関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職に、日常の利用者の状態を報告し、適切なアドバイスや指示を受けている。又、看護職は、個々の利用者受診や医師への専門的な見解の中継となり、介護職は具体的な指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化は本人の不穩の元となる要因の一つであるが、これらの事態からも、出来るだけ早期退院が出来る様、医療機関やホームの看護師および職員も、連携し努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向に添った支援を行う方針のもとに、家族が納得される迄、説明を行い、希望された場合、看取りの同意書を頂き、医師や看護師、介護士が支援体制を組み、家族の協力を得ながら取り組んでいる。	ご家族の意向に添った支援を行なう方針のもと、ご家族への説明も行われ、必要に応じて看取りの同意書も頂き、医師との協力体制も築かれています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策マニュアルを掲示し、全職員に周知をし、意識を深めると共に防災訓練時に救急法の定期教育を実施し、繰り返し回を重ねながら、実践力が、身に付く様に徹底して行っている。	定期的な救命救急講習の受講と、誤嚥時の対応の研修などを行い職員への周知徹底が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアル・消防計画に基づき、職員や入居者が防災管理者が計画した月2回の訓練を実施し、徹底を図っている。又、地域防災活動へ参加すると共に災害時に地域の協力が得られる様、努めている。	災害マニュアルに基づき、ご利用者も交えて夜間や地震も想定した定期的な訓練が実施されています。また、地域の方にも事業所の避難訓練に参加していただき、災害時の地域との連携体制も構築されています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の尊厳を重んじ、人として最も大切な事ととらえ、全職員でプライバシーの保持や言葉使いを認識し、十分配慮出来る様、努めている。	個人情報の取扱いや羞恥心に配慮した対応などの職員に対する周知徹底が図られています。また、契約時に個人情報の取り扱いに関してご家族に説明し承諾が得られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉だけの表出にとらわれず、表情、仕草からも本人の希望又は求めている事を知る様努め、意とする事への決定に導く様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの行動を観察し、孤独にならない様に注意し、その人らしくその人に添った日々を過ごして行ける様、職員は希望を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装等に注意し、不備な点はさりげなく手直しし、支援している。又、定期的に理容師からホームに来て頂くと共に、ドライブ等のお出掛けには、おしゃれを楽しんで頂ける様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と一緒と同じ食事をし、会話をしながら、ゆったりと楽しい雰囲気作りで心掛けている。又、食材の皮むきやテーブル拭きやお盆拭き食器を台所まで運ぶ等、積極的にお手伝いをして頂いている。	自然の食材に徹底的にこだわり、畑から収穫した野菜や山菜などの旬の食材が取り入れられています。また、ご利用者にも食事の準備や後片付けも手伝って頂いたり、外食の機会も設け、食事を楽しんで頂けるよう努力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は生きる源である事を大切に、食材は減農薬の自家野菜を多く使用し、栄養やバランスの良い献立を考え、一人ひとりの一日のカロリーや水分量を把握し、過不足なく摂取して頂ける様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを職員が付き添い、確認している。自分で出来ない方には介助を行い、口腔内の浄化や、義歯洗浄剤を使い、清潔を保持している。歯の不具合がある時、速やかに受診の援助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入により、一人ひとりの排泄パターンを把握して、適時に誘導をさりげなく支援し、失敗を最小限にとめる様に努めている。失禁時には適温の清拭布を用い清潔の保持を常に心掛けている。	排泄チェックや様子などをもとに排泄パターン把握し、朝のミーティングや引継ぎ時に職員間で共有することで、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘を予防する為、野菜等十分な摂取が出来る様、献立の工夫や、適宜な水分量の摂取をすすめている。また、新陳代謝が出来る様、日課に散歩・体操を取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には職員と一対一のコミュニケーションを取り、手作りのヨモギ湯等で、くつろいで頂ける様、支援している。又、リフト浴にも安心して入浴して頂ける様に努めている。	ご利用者がくつろぎ楽しんで入浴できるよう時間帯への配慮や、時期に合わせ、よもぎや菖蒲、バラなどを湯船に入れるなどの対応をし、ご利用者に楽しんでもらっています。近くの温泉に出かけて入浴を楽しんでもらうこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の生活や生活習慣、現在の状況等を考慮し、利用者が安心して心地よく過ごせる様に職員の対応を含めた環境作りに努めている。夜間眠れない利用者には、職員が話し相手になる等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指導により、看護師と協働し、個々の服薬ケースを作り、飲み方、量について理解し、飲み忘れの無い様に、注意を払うと共に、症状の変化についても、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各人の出来る機能を支援し、積極的に参加が出来る様に心掛け、お盆拭きや拭き掃除等その人に合った役割を持って頂き、自分にも、まだ出来るという、生きがいややりがいを感じて頂ける機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通年、散歩に出かけ、歩ける喜びを感じて頂く外、通院や、衣類の買い物など共に出かけ支援している。家族の無い利用者には親戚の協力を得て、墓参りや戦没者慰霊祭の参加などの支援をしている。	天気の良い日は散歩に出かけたり、ドライブの機会も多く作り、季節に応じたお花見や紫陽花見学、リンゴ狩りなどの外出の支援をしています。また、個別ケアに力を入れており、お墓参りや買い物支援などの取り組みも確認できました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る利用者には、自身で財布を持って頂き、食べたい物や、好みの衣類など選べる様、買物の機会を設けている。お金の管理が出来ない人には、言葉をかけて、心に添える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に電話を掛けたり、受けたりする時は、音のボリュームを上げ、聞こえ易い様に調節したり、手紙を書けない人には代筆等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの至る所に利用者が育てている植物を置いたり、草花を活け季節感を採り入れている。又、昔ながらの家具や、生活道具を置き、利用者の気持ちが和み、落ち着ける様にしている。自然光や風を取り入れ、体感に心地よい適温の調整を行っている。	事業所内のところどころに昔ながらの家具や道具を置き、ご利用者が落ち着ける雰囲気演出することや、季節に応じた模様替えを行い季節感を出すようにされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先やホール等に椅子やソファ等を置き、利用者一人ひとりが、好きな時に仲間と語り合い、自由に過ごされる事が出来る居場所作りを常に職員は心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使っていた、馴染みのテーブルや椅子など慣れ親しんだ品を持参して頂き、本人の思い出の写真や自分流に花を飾るなど、安心して日常生活が送れる様に、努めている。	慣れ親しんでいる物の持込みの奨励や思い出の写真の掲示など、居心地よく、これまでの生活の延長で暮らせるよう配慮がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自筆の表札・いつもお菓子や草花の備えてある位牌・挿し木で増やした鉢・編みかけの毛糸や編み棒・鏡台・テレビ・ラジオ・謡曲の本・杖立て等、馴染みの必需品で、出来る事をして生活されている。		